

当館が認知した主な犯罪の事例（10 月～12 月）

以下は、当館が認知した特徴的なスリ、置き引きの手口です。

※ 全て実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）の事例です。

【事例 1】

当地在住の邦人が出張中にバルセロナ空港のレンタカー会社を利用。車を借り受ける際、後部座席にパスポート等が入ったカバンを置き、車の周囲にキズがないかを確認した。その後、車に乗り込んで出発したが、途中でいつの間にか後部座席に積んだはずのカバンがなくなっていることに気がついた。レンタカー会社で車を確認中に隣に止まっていた車がおもむろに出発したことを思い出し、その車に乗っていた人間が盗んだのではないかと考え、レンタカー会社に隣に駐車されていた車両の借り主を確認したところ、「その時間帯、同駐車場の使用を把握していない」との返答。同レンタカー会社の駐車場は、コインパーキングの一角を利用したものであり、誰でも出入りできる構造だった。

【事例 2】

夫婦でケルン旅行中、ケルン中央駅を出たところで男から「ジャケットに何か付いている」と声をかけられた。夫婦は、男から「拭き取った方がいい」などと促され、ジャケットを脱ぎ人通りが少ない場所に来るよう手招きされた際、引いていたスーツケースから一時手を離した。その瞬間、また別の男が現れ、スーツケースの上に置いていたカバンを持ち去った。夫婦はカバンが盗まれたことにすぐ気がつき追いかけようとしたものの、2 人の男はそれぞれの方に逃げていった。

【事例 3】

ICE を使ってデュッセルドルフからニュルンベルクに出張中、頭上にビジネスバックを置き、席に座ってパソコンを使って仕事をしていた。駅に到着し、降りようとしたところ、頭上のビジネスバックがなくなっていることに気がついた。到着まで席を離れることはなかったが、仕事に集中し、頭上を確認しなかった。自分以外の乗客も頭上の棚を利用していたが、被害に遭ったのは自分だけ。

【事例４】

メッセに参加するため出張中、ケルン駅を歩いていると外国人の若者２人組（１０～２０代）から英語で「ライターを貸してくれ」などと声をかけられた。どこから来たのだなどと英語で質問を受けたので、一言、二言応じているうちに、日本のサッカーチームを応援しているなどと言いながら２人のうちの片方がおもむろに肩を組んできて、ボールを蹴るそぶりをしつつ自分の足を蹴ってきた。更に今度は、自分の胸のあたりをなれなれしく、強い力で４、５回たたいてきたので、不快に思いその場を離れたところ、いつの間にかたすきにかけていたバックがなくなっていることに気がついた。

【事例５】

夫婦でデュッセルドルフ駅からパリに向かう都市間列車に乗車。通路側、窓側にそれぞれ座り、２人の足下（間）に鞆を置いた。数分後、足下の鞆からものを取りだそうとしたところ鞆が消えていた（その間、２人は席から離れていない）。確認したところ、座席の下方には空間があり、後ろから鞆を盗むことが可能だった。

【事例６】

土曜日で多くの人でごった返すケーニヒスアレーのクリスマスマーケットを散策中、屋台で買い物などをしていたら肩にかけていたはずのトートバックがいつの間になくなった。引っ張られたような感覚は一切なし（持ち手の部分を切られた？）。

【事例７】

夫婦が日本食レストランに入ったところ、突然、聴覚障害者であるというよう
なそぶりで外国人男性が近づいてきて筆談を求められた。その男性とコミュニケーションをしようと意識を向けていたところ、死角から別の外国人女性が夫妻のバックを物色しようとしていることに気がついた。その瞬間、その男女ともう一人（見張り？）が店から逃げていった。

以上のとおり、スリ、置き引き犯人は一瞬のスキを狙っています。貴重品から意識を離すことなく、十分注意してください。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに１１０番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。